

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふれあい チャレンジ きらりかがやく 三里の子の育成	(1) 確かな学力の定着と指導力の向上 (2) 人間性豊かな心の育成 (3) たくましい体の育成

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 確かな学力の定着と指導力の向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	基本的な学習習慣・態度の定着	基本的な生活習慣と学習習慣の定着を図り、自主的な学習を充実させるために学習規律を身につけさせる。	・児童の学習習慣の意識化のために、「家庭学習十ヶ条」「自習学習のポイント」を各家庭に配布し、学級便りや懇談会等で保護者への啓発を図る。 ・スキルタイムを継続して実施し、読む・書く・話す・聞く学習活動での基本の定着を図る。	B	・学習習慣及び生活の確認のためのチェック表を活用し家庭と連携した改善に効果を得た。 ・学習理解の向上を図るために、より有効なスキルタイムの内容を構築する必要がある。	・「家庭教育指針ふりかえり表」において達成が不十分な児童には家庭への協力依頼を継続して行い改善を図る。 ・スキルタイムを継続することで学習補充効果を図り自主的な学習規律を身につけさせる。
		確かな授業力の向上、専門性を高める研修	確かな学力を身に付けさせるために「分かる授業」づくりを行う。	・校内研究で、年4回の研究授業を行い、学習過程や取組の共通化を確認する。 ・自分の考えを持つ時間とともに、考えを発表し学び合う時間を確保する。 ・理解したことの定着を図るための時間を学習時間内に確保する。	A	・児童の96%が「勉強が分かる」、保護者の96%が「勉強が分かっている」と答えており児童・保護者ともに学習内容が理解できていると捉えている。 ・理解したことが定着したため、県学習状況調査では、4～6年は4教科すべて県平均を上回った。	・学習過程の共通理解と取組の共通化を1学期中に行う。 ・学習時間内に適用問題を必ずする。また、家庭学習にその日の学習内容を含む練習プリントを配布する。 ・学期末に補充学習を行う。
	●ICT利活用教育の推進	ICTを積極的に活用した授業の実施	電子黒板やタブレットPCなどICTを積極的に活用した授業を構築し、児童の関心意欲と思考力を高める。	・各教科において、電子黒板やタブレットPCの有効な活用方法を研究し、授業で用いる。 ・ICTを利用した学習の推進に関する職員研修を行う。	B	・年間をとおして、情報機器を活用した授業実践が全学年で図れた。 ・機器の技術的課題をなくし、児童のタブレット使用頻度を高める必要がある。	・利用技能をより高めるために、ICT支援員の定期的来校を図り、授業での機器サポートを依頼する。 ・職員研修として長期休業を中心に、機器操作の研修及びデジタル教材の作成を行う。

② 人間性豊かな心の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	読書活動の推進	読書習慣の定着と読書好きな児童を目指し、全児童の100冊読破を目指す。	・3月末までに全児童の100冊読破を目指す。 ・貸出時における個人貸出冊数の意識付けを行う。 ・各学級で週に一度は図書館に行く機会をつくり、読書促す。 ・「とよかんだより」で学年別貸出冊数を公表する。	A	・2月現在で、100冊読破達成者は51名で全校児童の95%を達成した。 ・本好きな児童は、休み時間に毎日本を借りることができているが、本を読まない児童は図書館に来る機会が少なく、返却期限を守れない場合が増えている。	・週に1回は必ず学級で図書室を利用する時間を設け、全児童が図書館の本を借りる機会を増やすと共に、返却が遅滞しないようにする。
		礼儀・あいさつ	時と場所に合った正しい言葉づかいができる児童を育成する。	・今年度の生活目標に「正しい言葉づかい」「あかるいあいさつ」を掲げ、学年に応じた取り組みを通し、丁寧な言葉づかいや明るいあいさつができるようにしていく。 ・友達を呼ぶ時に「さん」や「くん」を付けて呼ぶことができるようにする。	B	・児童自身の96%が「あいさつや返事ができている」と答えているのに対し、わが子に対する保護者の評価は84%であった。昨年も保護者は85%だったので、家庭でも挨拶や返事ができるように継続してふりかえり表に取り組んでいきたい。 ・人権集会で名前の大切さと、「さん」や「くん」を付けて呼ぶことの発表があったのは、分かりやすかった。	・家庭教育指針ふりかえり表の事前の呼びかけと強化週間を終えた後の比較検討をしていく。 ・あいさつや返事を、学校では子ども同士で自然に交わし合い、家庭でも進んでできるように、いろいろな場面でその都度声をかける。
	●いじめ問題への対応	いじめゼロ	子どもの心の状態を常に把握し、いじめにつながる言動を見逃さない。	・月に1回心のアンケートを行い、子どもたち一人一人の心の状態を把握すると共に、気になる子への声かけを多くし、かかわりを深める。 ・三里小いじめゼロ宣言を児童に示し、子どもの「いじめ」に対する危機意識を高める。 ・年2回のQUTテストを児童理解を深める手立てとして活用し、学級づくりに生かす。	A	・心のアンケートを月に一度実施することで児童の心の変化に気づきやすくなり、事後指導に活かすことができた。 ・いじめ防止標語への取り組みを児童に呼びかけ、いじめゼロ宣言を人権教室で発表することで、共通理解を図ることができた。児童が相談するのが85%だったので、より相談しやすい環境を整えたい。	・心のアンケートを活用し、気になる子への声かけを多くし、かかわりを深める。 ・QUTテストを活用し、児童理解に努め、学級づくりに活かすことが学校全体としてなされるような機会を設ける。

③ たくましい体の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	児童の主体的・健康的な生活習慣の確立	健康的な生活に必要な知識を習得させ、自分の生活を見つめ直し、改善する力を向上させる。	・健康的な生活習慣を身につけるよう、月の生活目標にあげて全学的に取り組んだり、「ほげんだより」を発行し家庭と連携を図ったりする。 ・週1回のエチケット調べと学期1回のエチケット調べ強化週間を設け、重点的に取り組む。 ・家庭教育指針に学期2回ずつ取り組み、結果をただちに公表し、健康的な生活習慣の定着を図る。	B	・家庭教育指針に取り組み、結果を公表したことにより、ゲームしない運動に対する意識が高まってきている。 ・エチケットしらべにおいては毎週、学期ごとの強化週間で児童の意識が向上している。 ・保護者の意識が高まるにつれ、まだ、できていない面が明らかになった。	・家庭教育指針の振り返りの体験談を紹介し、啓発していく。 ・振り返り表で点数の低い項目については重点的に指導していく。 ・振り返り表に、年度当初から児童それぞれにめあてをたてさせ、取り組ませていく。
		食育の推進	よりよい食事のあり方を理解し実践するとともに食を通して感謝の心をもてる児童の育成を目指す。	・月別給食指導目標を掲げ、各月の担当者がなかよしタイムの時に全体指導を行う。 ・食事のマナーとして箸の持ち方や姿勢などの掲示物を作成し指導する。 ・給食センターの栄養教諭を招いて、食について学ぶ機会を設定する。(学級指導、なかよしタイム等) ・児童一人一人が、それぞれの食べられる量を完食することで、できるだけ残食が出ないようにする。	B	・児童が苦手なものを食べようとしていることや家庭でも調理の工夫や声かけなどを行っていることが、学校評価アンケートにも表れている。また、学校でも声かけを行い、食べられる量の完食の指導はできた。 ・食に関する指導計画等によって指導してきたが、十分とはいえなかった。	・月毎の担当者が決まっているので、それを生かせるようにする。 ・食に関する指導が計画的に実施できるように、強化週間などを設定する。 ・計画等がマンネリ化しないように、プロジェクト会議等での見直しを行う。
	○体験活動の推進	体験活動を通じた実践力の育成	総合的な時間や三里ふれあい自然塾等での体験活動の実践と見直しを行い、活動の充実を図る。	・自然体験、農業体験、ボランティア体験の目的を児童に理解させ、計画的に取り組む。 ・振り返りカードを作成し、縦割り班活動、三里ふれあい自然塾などの活動に活用する。	A	・実習園の栽培計画を地域ボランティアの方と話し合い、教室に掲示したことで、職員も児童も見直しをもって活動することができた。 ・振り返りカードによって児童の感想を把握し、事後や来年度の活動に生かすことができた。	・総合的な学習や実習園での野菜の栽培について児童がより主体的に活動できるよう、年間計画の見直しを行う。 ・三里塾の体験活動が、より自主的な活動になるように職員・保護者・地域ボランティアと共通理解を図る場を持つ。(スタッフ会議等)

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	○学校経営方針	学校教育目標及び経営方針、重点的な取り組みの周知	学校教育目標とその重点取り組みを保護者や地域、児童へ積極的に周知し、学校の取り組みについての理解度80%以上を目指す。	・目標の目指すところや達成状況について、授業参観、育友会総会、学校説明会等で具体的に説明し、理解してもらおう。 ・学校便りや毎月1回以上触れることで周知を徹底する。	A	98%の保護者が本校の「教育活動の成果が出ている」と回答している。学校教育目標達成に向けた様々な教育活動について保護者に理解されてきている。	児童の頑張りや学校だよりに掲載し、地域へ紹介することで意欲の向上につなげたい。
	○教職員の資質向上	教職員の資質向上 服務規律の保持	教職員として自分の課題を見つけて、積極的に研修会等に参加し、資質向上を図る。	・全員が教育センター研修講座に1回以上参加する。 ・長期休業を中心に、各種講座・講演会や研究発表会の案内を回覧し、積極的な参加を呼び掛ける。	A	「教員は授業の工夫改善を行っている」と回答した保護者は98%で高い評価であった。教師も、全員が研修会等に参加し指導力や識見を高めていると回答している。 ・全教員が自分の課題をもち、教育センター講座やスキルアップ研修等に参加し、資質向上に努めることができた。	今後も、各種講座・講演会や研究発表会の開催案内を回覧し、積極的な参加をよびかける。
	○開かれた学校づくり	保護者や地域に信頼される学校づくり	学校情報を積極的に発信するとともに保護者や地域の声を学校教育へ反映する。	・学校便りや月2回以上発行し、学校HPも更新分担当を決め月2回以上の更新をする。 ・保護者や地域の学校教育に対する様々な声をアンケート等で集め、それを学校教育へ適切に反映させることで地域の中の学校づくりを進める。	A	学校からの情報発信は各種便りをはじめ、HP掲載など積極的に行うことができた。保護者アンケートでも58%そう思う、40%だいたいと思うと回答があり、高い評価だった。	・HP閲覧数を高める工夫や手だてを考える必要がある。 ・一方的な情報発信に止まらず、地域の情報を収集し教育活動へ反映していきたい。
		保護者・地域との連携 地域の生活文化の拠点となる学校づくり	保護者・地域、一人一人との情報交換をより密にして、連携を深める。	・学校を地域の生活文化の拠点とするため、学校行事や育友会行事等について、機会をとらえて積極的にまた早めに学校から情報発信する。 ・三里小サポーター隊への参加の呼びかけを行う。 ・行事毎に実施していたアンケートの内容や方法を検討・改善し、結果を反映させやすくする。	A	・学校便りや全戸配布チラシ等で情報を発信することで、学校行事に多くの参加者があつた。三里フェスタでは、児童数の3倍近い参加者があつた。 ・「学校は保護者や地域と連携、協力して教育活動に取り組んでいる」と思う保護者は98%で、高い評価であった。 ・学校を地域の方に開放する「ふるさとギャラリー」には、絵画、ちぎり絵、写真、書など多くの作品を提供いただいた。	・各行事のアンケートの回収率が向上しなかった。より多くの感想や意見を取り入れるために、アンケートの実施方法を、当日実施だけでなく、児童配布により後日回収する方法等を検討する必要がある。
特定課題	●低学年の学習環境の改善 充実	基本的な生活習慣・学習習慣の育成	先生や友達の話をも最後まで聞くことができるようにする。	・「話しての方を見る」「最後まで聞く」「受け言葉を使う」などができたら、個別や全体の場で賞賛し、価値づける。 ・話術を提示したり、プリントを配布したりする。	B	・「話しての方を見る」ことは定着してきた。 ・相互指名をさせたことで、聞き手の意識付けができた。 ・受け言葉をよく考えず、オウム返しに言う場合がある。	・話し方、聞き方の基本的な話術を掲示するなどして、場に応じた話し方や受け言葉の使い方を指導していくことが必要である。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

・アンケートからは、98%の保護者が教育活動の成果が出ていると回答するなど、本校教育活動に対しておおむね好意的な評価を得ることができた。また、全職員が共通理解を持って学校教育目標の実現に向けて取り組むことができた。
・本校の特色の一つである保護者や地域と連携、協力した教育活動については、今年度も充実した取組ができ、保護者の評価も大変高かった。保護者への情報発信も積極的に行っていると高く評価されている。今後も地域の生活文化の拠点として、より一層充実させていきたい。
・学力向上に関しては、全国・県学習状況調査においても、保護者や児童のアンケート結果においても、取り組みの成果が表れ高い評価であった。これに満足することなく、家庭における学習習慣の定着やICT利活用において、達成目標を高く持ち、より一層の充実を図ってきたい。
・目標③たくましい体の育成でB評価が多かった。おおむね達成はしているが、家庭における習慣づけ等に課題が残るので、保護者との連携を今後も継続していきたい。
・中間評価については、これまで各行事ごとに保護者や来校者へのアンケートを実施していたが、回収率を高めるための工夫・改善を行ってきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目